

インターバンクの声（2016年10月24日）

週末の東京市場の円相場は、午後になってからドルの上値が重くなり始め、ロンドン市場からニューヨーク市場の序盤にかけても、米長期金利の低下や欧州株価の低下から103円台中盤まで円買い・ドル売りが進んだ。それでも市場には米連邦準備制度理事会（FRB）が年内利上げに動くとの見方に変化がないことや、ニューヨーク市場の早い時間に下げている原油価格の反発やニューヨーク・ダウの下げ幅縮小から104円まで値を戻した。その後、サンフランシスコ連銀のウィリアムズ総裁が「比較的早期の利上げが妥当」と発言、週中に低金利の持続に懸念を示したフィッシャーFRB議長や、年内の利上げを見込むと発言したニューヨーク連銀のダドリー総裁に続いたが、市場の反応はほとんどなかった。今週は米国の住宅関連指標などの発表も予定されているが、週末の第3四半期GDP速報値の発表まで大きな変化は期待しにくいとの声が多い。中には来週の市場公開委員会（FOMC）や11月4日の米雇用統計の発表まで円相場がレンジから抜け出すことはないと言い切る人までいるが、ユーロやポンドの下落には注意が必要だろう。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。